六郷特別出張所管内	
人口	男32,341名
	女30,767名
	計63,108名
世帯数	28,735世帯
平成14年12月1日現在	

六郷わがまち

発行　わがまち大田
六郷地区推進委員会
編集　「六郷わがまち」編集委員会
事務局　大田区六郷特別出張所
〒144-0055
大田区仲六郷2－42－2
電話　03（3732）4885㈹

お正月の行事

古い歴史をもつ六郷の地には、お正月にふさわしい多くの伝統行事がありますが、その代表的なものを三つ――

六郷神社のこども流鏑馬（やぶさめ）

――平成15年1月7日（火）午後1時開始――
「おおた写真ニュース」より転載

第26回六郷のどんど焼き

――1月7日（火）午後1時30分点火――
六郷橋の下流300mの河川敷で
主催・六郷の昔を語る会
後援・大田区教育委員会

六郷のとんび凧揚げ大会

――1月13日（祝日）成人の日、午後12時～2時30分
西六郷二丁目地先の河川敷で
主催・古川薬師凧の会

R70　この情報紙は古紙70％の用紙を使用しています。

東京都無形民俗文化財　六郷神社の子ども流鏑馬（やぶさめ）

一般にヤブサメ・オビシャと呼ばれる行事は、弓神事と一括される正月から春先にかけて行われる年占いの行事で、馬に乗って的を射るものをヤブサメ、歩いて的を射るものを歩射（ぶしゃ）、転じてオビシャという。

男の児の健康・開運・出世を祈願して

六郷神社のヤブサメは歩射で、古くは「弓射り」ともいわれ、男の児の健やかな成長・開運・出世を祈願するユニークな行事として、昭和38年（1963）3月1日、東京都の無形民俗文化財に指定されている。

流鏑馬の射場

独特な八方白眼（はっぽうにらみ）の的

射場と的

射場は、拝殿に向って左手の境内に設けられている。的までの射場にはムシロを三列に敷きつめ、両脇には葵の紋のついた白い幔幕を張る。

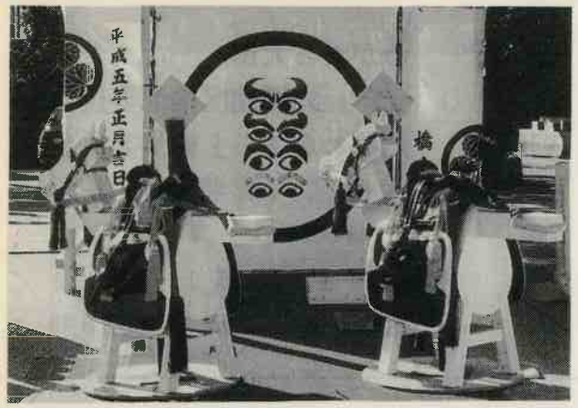
六郷神社が葵の紋と巴紋を併用しているのは、徳川家康が多摩川に架けた六郷大橋の竣工に際し、神恩感謝の祝文を奉り、宮神輿をもって渡初式を行なったという故事にもとづく。

ヤブサメの的は、直径1m80cmほどの輪の中に「八方白眼」という4対（つい）の目玉を墨で描いてある。上から順に内、上、外、下をにらみ、上2対はつりあげ眉、下2対はさがり眉である。

弓と矢

弓は、椿もしくは樫の木でつくり、長さは1m75cm、弦は麻をよったもので、上部に幣束をつけ、握りの部分は半紙を巻いて、麻でしばってある。

矢には、一節ごとに皮を残した篠竹を用いる。長さは13束三つ伏せ（束は親指以外の指4本の幅。伏せは指1本の幅）。上部に矢羽根を型取った西之内をはさんで麻で結ぶ。これを「本矢」といい、射士の数だけ用意する。後述する「山越し」の矢は「大矢」といって、15束二つ伏せで本矢よりも長い。本矢も大矢も先端はとがらせない。



射士

射士は12歳以下の男の児で、昔は厳しい制約があったが、現在は氏子の男の児であれば誰でも参加することができる。

古くは日の出とともに射りはじめ、午前8時ごろには終ったというが、最近は午後1時からの開始となっている。

射士は付き添いの父母と一緒に昇殿参拝をすますと、神社備え付けの裃姿に着替え（かつては家紋入りの紋服と袴と刀を各自の家で用意し、裃は付けなかった）、腰に刀、うしろ襟に小さな御幣をさし（昔は腰にさした）、神社役員の案内で次々に矢を持って射場に向かう。

順番はくじで決められている。最初に1番と2番の射士が「山越し」といって、ふたりの矢を交差させ、的を越すように高く射る。次いで3番と4番が同じように矢を交差させて1の目玉を射る。以下、2人1組で「ヤァーッ」と掛け声もろとも目玉を射る。9番・10番の射士で八つの目玉全部を射抜くと、「射りっ返し」と称して、1の目玉からまた順に射っていく。

矢を射るといっても、弓に矢をつがえたままで、神社役員の介添えで的を突くのである。的を突き刺した矢は、矢抜き役員が抜きとって射士に渡す。

行事が終了すると、1番・2番には弓、3番・4番には大矢と弦、射士全員には自分の射った本矢と御供餅が授与される。

八方白眼の目が16もあるのは化け物だといわれ、これを射つぶすことによって、矢は文字どおり破魔矢となるわけで、昔は射士の寝る部屋の天井の桟などに結び付けておくと、悪霊退教の効き目があると信じられていた。

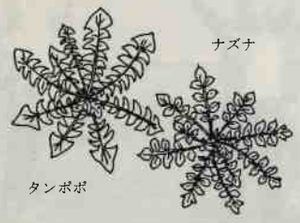
変容した現況

ところが平成10年度からは大きく様変わりして、「蛇の目」という墨で描かれた輪も「八方にらみ」の目玉も、白い布に染め付けられ、射士はその前に置いた木馬（もくば）にまたがり、正方形の杉板の的に重藤（しげとう）の弓で小さな鏑矢（かぶらや）を射るという様式に改められた。本来の歩射からよりヤブサメらしく変化をとげたといえなくはない。（解説・平野順治）

六郷の草たち ⑳

六郷の冬の川原には、葉っぱが地面に張りついて丸くなっているものが見られます。

このように放射状に広がって、太陽の光を受ける草の形をロゼット（バラの花の形をした飾りのラテン語）と言います。



タンポポやナズナなど、ロゼットの形で冬を越す草はたくさんあり、カモたちの冬の大切な食料になっています。

（古屋のり子）

大田区役所3階に六郷の大とんび凧

このほど六郷の大とんび凧（翼長5・4メートル、胴丈2・55メートル）が、大田区役所3階の吹き抜けに飾られました。

編集委員長＝平野順治　編集委員＝竹内昭信・高橋ハルヨ・先崎佳子・瀬谷角太郎・中島寿美・星野薫・溝尾辰雄・平野みよ子・柳　登志靖・石渡祥之・宮崎豊・若月順子・大湊幸子・池中武雄